

氏 名：池田 良輔子

学位の種類：博士（看護学）

報告番号：甲第93号

学位記番号：博第91号

学位授与年月日：令和2年3月17日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文題目：訪問看護師が織りなす終末期療養者と家族への初回訪問を基軸とした
訪問看護導入期のケア

Home-visit Nursing Care in the Introductory Period Based on Initial Visits to
End-of-life Patients and Their Families

論文審査員：主査 佐々木 幾 美

副査 石 田 千 絵（正研究指導教員）

副査 川 原 由佳里（副研究指導教員）

副査 田 中 孝 美

副査 吉 川 悦 子

論文審査の結果の要旨

本研究は、終末期療養者と家族に対する初回訪問を基軸とした訪問看護導入期のケアを、社会構成主義を理論的前提としたナラティブ・アプローチを用いて分析した質的帰納的研究であり、6名の訪問看護師の語りから訪問看護師による卓越したケアを明らかにした論文である。

我が国に訪れる多死時代に備えて在宅における医療・看護に注目が集まる中、在宅終末期療養者を支える看護に注目した本研究テーマは、社会のニーズや看護実践の質向上に貢献するテーマであり、研究の意義が高いことが評価された。

また、在宅療養を支える初回訪問から訪問導入期のケアを明らかにするには、療養者とその家族の個別性に合わせたケアの詳細を丁寧に記述できる方法が適しているが、先行研究ではナラティブ・アプローチを用いてこれらの現象を明らかにした報告はなく、本研究の方法論としての新規性が評価された。

結果では、「初回訪問を基軸とした訪問看護導入期のケア」が根拠に基づき丁寧に適切に解釈され、記述が的確・明確に生き生きと記されている点が評価された。そして、ナラティブの記述と分析により明らかになった結果から、初回訪問の出会いにおける感情的関与の存在とその意味や、初回訪問で療養者と家族への尊敬の念、出会いの場で療養者の本来の姿を捉える看護師の知覚という視点で、多方面から論理的かつ深く考察されている点も評価された。これらの結果と考察を看護への示唆として記述されている点も評価された。

家そのもの、そして家で過ごす患者家族のありようが、彼らが言葉で語る以上に、彼らが生活し過ごしてきた日々を物語っていた。本研究の語りは、そのような場に直接、身を置くことで生成され、ケアを通じて深みと広がりを増し、さらに研究者の存在を通じて社会構成的に紡ぎだされたものである。このプロセスは“現実現象に対してどのように捉え、どのように定義し、語り合うかによって社会的に認識されるようになる”という社会構成主義の理論前提とも一致し、その視点は結果のみならず、考察にも十分に活かされていると評価された。

さらに、研究目的、テーマ、研究方法、結果の記述の全過程において、倫理的な配慮が十分になされている点も評価された。

審査の結果、本論文は本学の審査基準を満たしていると判断し、博士（看護学）の学位論文として「合格」と判定した。